

目的：関西全域のQR乗車券への対応による利便性向上

- あらゆる公共交通でシームレスかつ便利なアプリの機能を提供し、コロナ禍によって落ち込んだ公共交通の利用を喚起する。
- 大都市圏の複数の交通事業者が広く連携し、2025年大阪・関西万博の国内外の来場者を円滑に誘導する。

事業内容：QR乗車券の共通化とチケット造成システムの開発

【① マルチモードで認証可能なQRチケットングシステムの導入】

- スルッとKANSAI加盟社局と、JR西日本の改札機を相互に利用できるQR認証方式を導入。単一のチケットでシームレスな移動を実現。

【② 交通事業者がQRチケット造成を行える環境構築】

- スルッとKANSAI加盟社局とJR西日本双方のABTシステムでQR対応企画乗車券を造成・発売できる環境を構築。ニーズに応じた迅速なチケット販売を可能とし、2024年度は2券種を発売した。

【③ QRチケットの利用データを収集できるデータベースを構築】

- KANSAI MaaSアプリの既存の販売実績DBに加え、乗降駅など利用実績DBを設けることで、複数事業者をまたいだ企画乗車券などの利用実績を可視化、利用状況を今後の商品造成に活用する検討を行った。

効果

- 課題:従来のデジタル乗車券は係員の目視による認証が主であり、都市圏での運用に課題があった(例:対応時間の遅延、係員負担の増大)。関西全域での企画乗車券設定が可能な認証基盤が存在しなかった。一部事業者において企画乗車券の新規設定に伴う改札設定に多大な時間を要した。
- 効果:本事業により、関西全域の交通事業者が共通運用できる電子的な認証手段ができ、デジタル乗車券の都市圏での運用が可能となった。認証手段のクラウド化により企画乗車券設定の負担が軽減した。

【実施エリア】

下記鉄道事業者の路線において、QR乗車券対応企画乗車券を設定した

事業者名
大阪市高速電気軌道 (Osaka Metro)
近畿日本鉄道
京阪電気鉄道
南海電気鉄道
西日本旅客鉄道
阪急電鉄
阪神電気鉄道



【本事業の取組の全体像】

KANSAI MaaSチケット
画面にQRコードを表示

関西の主要鉄道事業者が共通運用できるQR企画乗車券を設定



【QR表示画面】



【改札試験を実施した際の様子】

